

令和6年度

事業計画案

社会福祉法人 久昌会
いぼばらこども園

1 保育目標

乳幼児期の特性をふまえ、保育者と乳幼児との信頼関係を十分に築き、乳幼児と共に創意ある保育環境をつくり上げる中で、乳幼児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。また、遊びを通して総合的な指導をすること、乳幼児一人一人の発達の特성에応じた指導をすることを重視し、心身共に調和のとれた「豊かな人間性」と「生きる力」の基礎を育成する。

(1) 本園の保育目標

◎ いろいろな体験・経験を通し成就の喜びを育てる。

- ・自分で遊びを十分楽しみ工夫・発展させていけるようにする。
- ・友だちと協力してあそぶ中で助け合う気持ちを育てる。
- ・土に親しみ動植物への興味関心を育てる。
- ・広い自然の中で伸び伸び遊び豊かな心を育てる。
- ・あそびの中で危険性に気づき、考え行動できるようにする。
- ・やりはじめた事を最後までやり通し、成就の喜びを味わえるようにする。

(2) 経営方針

1. 伊保原団地は世代交代の時期に入り、団地内の子どもは増加傾向にある。また、高層マンション、県営団地、市街化区域の調整によって新しく移り住む世帯も増加傾向にあるが、地域の交流や親同士のつながりに弱さがみられる。そこで、子どもだけでなく、保護者も巻き込んで地域交流を意識した温かい保育に取り組んでいく。また、未就学児の親子を対象に「子育てひろば」を開催し、地域に開かれたこども園とする。
2. 保護者の子育ての様子をみると、子どもの育ちには関心は高い。しかし、子育てをどうしたらよいかわからず、放任したり、叱責したりして育てる傾向がみられる。そこで、保育の中で「大人は、あなたの味方。甘えられ、頼れる人なんだよ。」ということを丁寧に知らせる保育者の関わりを心がけ、一対一で人との関わり方や、複数の人々と一緒に過ごす心地良さを体験できるようにする。
3. 子どもたちを見ると、少子化や遊びの変化（テレビゲーム）などで異年齢で遊ぶことや戸外での子ども同士の遊びが少ない。
そこで異年齢交流で遊ぶ機会を作り、野菜作りや花作り、散歩などの自然とのかかわりを多くとりいれ、実体験を通した活動をする中で「思いやりの心」「感動する心」「やりとげるよろこび」などを育てていく。
また、子どもの目線に立ったかかわりの中で子ども一人一人の遊びが充実していくように言葉がけに配慮していく。
4. 「クラスだより」「連絡ノート」で子どもの育ちをプラスする方向で伝え「園行事」を保護者も巻き込んで親子共通の体験の場となるよう工夫し『子育て』を保護者との共通の本題としていく。

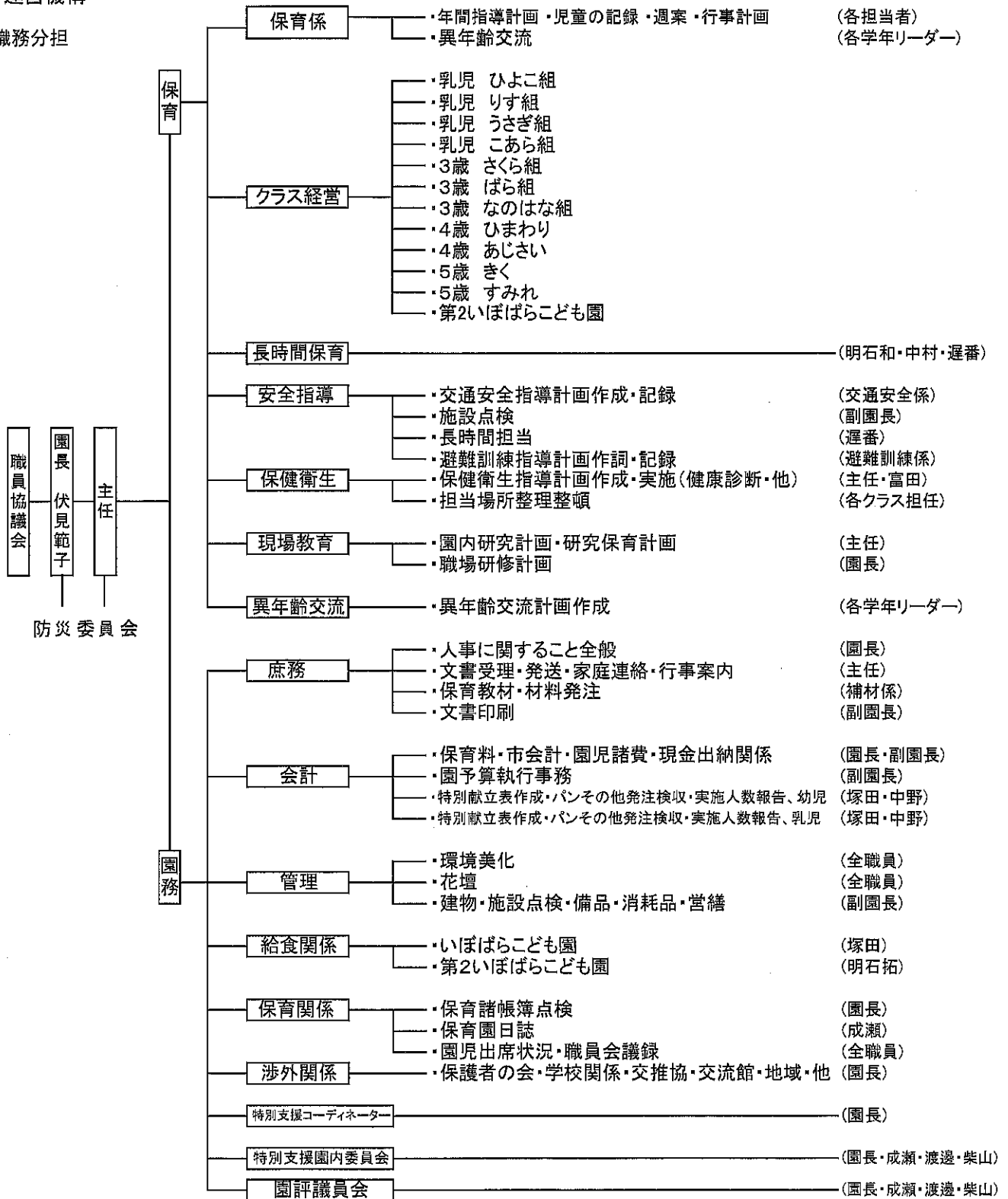
(3) 本年度の重点努力目標

1. 自然とふれあうことの楽しさ、おもしろさを丁寧に伝える。
2. 子どもの発達を理解しながら、子どもの心情に添った援助のしかたを学ぶ。
3. 異年齢児との交流、高齢者との交流、地域の人との交流、発達センターとの交流を深める。
4. 野菜づくりを通して食べ物を大切にする気持ちを育てていく。

2 園の組織
(1) 園の規模

(2) 運営機構

職務分担



0歳児年間指導計画

『安心できる環境の中で興味を持ったものに生き生きと向かっていける子』

保育目標	保育日標	年間区分	I 期(4月～6月)	II 期(7月～9月)	III 期(10月～12月)	IV 期(1月～3月)	園長	主任	担当
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 清潔で安全な環境の中で、個々の生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持、情緒の安定を図る。 環境を留意しながら、バランスのとれた身体づくり遊びの中で育ていく。 一人一人の発達や発育環境を留意しながら、バランスのとれた身体づくり遊びの中で育ていく。 保育者の笑顔やあたたかい関わりの中で、安心した心を育て、安定した人間関係の基礎をつくる。 身近な自然に触れ、五感を働かせる経験を通して自ら関わろうとする意欲や態度の芽生えを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の家庭での睡眠、食事内容、発達環境などを留意して、安全で衛生的な環境のなか、安定した生活の流れをつくる。 話しかける、抱く、あやす、やさしい歌声や笑顔などで関わりながら情緒の安定を図り、信頼関係をつくる。 個々の体調や機嫌などを十分把握し配慮しながら、赤ちゃ身体操や外気浴を行い、戸外の気持ちよさ、季節の心地よさを肌で感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外との温度差や湿度、換気に十分配慮し、衣服の調整や、ごまめな水分補給、体調管理に気を付ける。 一人一人の体調や機嫌などに留意し、気温、水温、水質に配慮し、沐浴、水遊びを行い、清潔に気持ちよく過ごせるようにする。 一人一人のさまざまな欲求(食べる、飲む、眠る、遊ぶ)や甘えたい気持ちを十分に満たし、安心して過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調に留意しながら薄着を心がけ、全身をつかづいた運動遊びを通して、バランスのとれた身体づくりをしていく。 身の回りの物や自然物に興味や関心をもち、いろいろなものに触れて、探索活動を楽しむ。 保育者に優しく語りかけられたい、絵本を読み聞かせしてもらいたい、発声や喃語、指差しに反応し、発語への意欲を育てる。 					
月齢	6～9か月	9～12か月	1歳～18か月未満	18か月～2歳未満					
子どもが発達	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠は午前と午後、一日二回程度になる。 舌でつぶせるような硬さのものがもぐもぐ、ごっくんと食べられるようになる。 腹ばいで近くにある玩具に手を伸ばしたり、握ったりする。 お座りが安定し、手を伸ばして物をつかんだり、持ち替えたりする。 盛んに「マンマンマンマン」など反復喃語をいう。 人見知りをはじめ、保護者や保育者が見えなくなるのを泣く。 つかんだものをなんでも口に持っていき、なめたり、口に入れて感触を試したりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時間が一定となってくる。 さまざまな味や触感の離乳食を食べる。 スプーンをもちながら、手づかみで自分で食べようとする。 コップを両手でもって飲むようになる。 「オマル」や便座に座ることに興味を持ち、簡単な言葉の意味が解り、振り向いたり、指差しをしたり、喃語などで応答しようとする。 保育者の呼びかけや、興味のある玩具、場にむかってハイハイしたり、つかまり立ちをしたり、伝い歩きが活発になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 午前中眠ることが少なくなると、午睡を十分にとる。 離乳食がほぼ完了し幼児食へ移行する。 一人歩き、ハイハイや伝い歩きで段差の昇降を楽しむ。 手遊びや模倣遊びをするなかで、言葉や「ワンワン」「ブーブー」など意味のある単語を覚える。 手遊びやリズム遊びを喜び、真似しようしたり、リズムに合わせて身体を動かす。 誘われたり、促されて、トイレへ行きオムツ交換してもらいたい、便座にも座る。 タイムイングが合えば成功することもある。 保育者の隣に入ると読み聞かせをしてもらうことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 午睡が一回となり、安定して眠れるようになる。 スプーンやフォークを下からもちたり、三味を持ち、自分で全部たべようとする。 味の好みや、機嫌で好き嫌いが出てくる。 要る単語や片言、動作で知らせようとするが、まぐろえられず調理をおこなったりする。 簡単な衣服の着脱を自分で取り扱ったり、持ち物の始末など納得いくまで取り扱ったりする。 階段の昇降や滑り台、ブランコなどで繰り返して遊ぶ。 遊んだり、坂道やでこぼこ道も自分で歩くことを喜んで散歩する。 保育者の仲立ちで身近な友達とままごとや砂場遊びなどで物や「ちよだい」、「どうぞ」などやり取りを楽しむ。 					
環境構成・保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生活リズムを把握し、午前寝をしたり、離乳食とミルクを混ぜさせたり、ごまめなオムツ交換を行い、生理的欲求を十分満たして安心できる環境と丁寧な関わりを大切にしていける。 腹ばいや、寝返り、ハイハイ、高這い、つかまり立ち、伝い歩きなど歩行に向けての全身運動ができる安全で活動しやすい場を設定する。 言葉かけたり、玩具で興味を誘ったりして、全身運動を促していく。 発声や喃語に目をみて優しく受け答えし、欲求を受け止めたり、安心した人間関係を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活リズムを個々の発達に合わせて整えていき、生理的欲求を満たして安心して生活できるように配慮する。 咀嚼や嚥下の発達を丁寧に関心し、離乳食を進める。 スプーンを上からもちたり、コップを両手でもって食べるように手を添えたり、励ましながら、自分で食べようとする意欲を育てる。 声をかけながらトイレ誘い、心地よくオムツ交換を行う。 徐々にオムツや便座にすわることに慣れさせていくように促し、誘っていく。 探索活動が十分できるように、安全な環境を整え、声をかけたり、励ましながら、興味関心の意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活リズムを作り、安心して生活できるように配慮する。 スプーンを上から持ち、自分で口へ運んで食べようとする気持ちをも大切に促し、咀嚼や嚥下を促し、味や、食事を楽しめるように関わる。 繰り返しの絵本や、手遊び、リズム遊びなど、言葉をまねたり、模倣遊びを楽しむように繰り返して行い、ふれあひ遊びを大切に促していく。 排泄間隔を把握し、トイレでの排泄を無理なく促していく。 一人歩きが活発となるので、転倒などに行える環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の原通しを持って、安心して生活できるように、言葉かけをして次の行動へ誘っていく。 スプーンやフォークを正しくもてるように知らせ、自分で食べる満足感を大切にす。 苦手なものも保育者に励まされながら食べようとする意欲を育てる。 個々の自裁の芽生えを促すため、言葉や添えたり、近くで見守ったり、優しく受け止めて安心して欲求をだせる人間関係を築いていく。 自分でやりたい気持ちや満たせるように、遊具や散歩、リズムあそびなどを活動を通して、一緒に楽しむ。 保育者が仲立ちをして、友達との物や簡単な言葉のやり取りの場を設定し「いっしょだよね」、「いれて」など思いの伝え方などを知らせる。 					
保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と園との生活が継続的になるように、生活リズムや発達の過程を伝え合っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食の進め方や、読み聞かせや語り掛けなどの大切さを伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能の発達や、模倣遊びなど自己表現の発達を知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の仕方や、トイレトレーニング、着脱の援助など自分でしたい自我の芽生えと関わり方について相談していく。 					

1歳児年間指導計画

『保育者に見守られながら身近な事に興、を持って探索する子』

<p>保育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 清潔で安全な環境の中で、一人一人の欲求を丁寧に応え、生命の保持、情緒の安定を図る。 安心できる保育者をよりどころに、身近な自然や動植物、友達に興味を持って自ら関わろうとする意欲や態度の芽生えを育む。 保育者に見守られている安全な環境の元、手や指、心身を十分に動かす、探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験を十分にし、興味や好奇心を育む。 保育者の応答的な関わりにより、発語の意欲を育む。 	<p>年間区分</p> <p>I 期(4月～6月)</p>	<p>II 期(7月～9月)</p>	<p>III 期(10月～12月)</p>	<p>IV 期(1月～3月)</p>
<p>ねらい</p>	<p>子どもの姿を受け止め、無理なく新しい環境に少しずつ慣れ、安心して過ごせるようにしていく。 ・一人一人と十分にふれあいがながら、子どもの気持ちを受け入れ、信頼関係を築いていく。 ・戸外遊びや散歩を通して、保育者に見守られながら、身の回りのものや自然物に興味を持ち、歩くことや探索する楽しさを味わう。 ・保育者の話しかけや応答を喜び、片言を話す心地良さを感ずる。</p>	<p>衛生面、安全面に留意しながら、個々の健康状態をこまめに把握し、水分補給や休息、睡眠十分にとり、風通しをよくし、快適に過ごせるようにする。 ・水遊びや運動遊びを十分に経験し、感触や心地良さを開放感を感じる。 ・保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、自分の思いや興味を持ったことを身振りや言葉で表そうとする。 ・保育者や周りの子の真似をしたり、一緒にいる楽しい雰囲気を感じる。</p>	<p>自己主張と甘えたい気持ちの揺れをしっかりと受け止め、安定した気持ちで過ごせるようにしていく。 ・散歩を通して、いろいろな道を歩く、走る、跳ぶ、昇り降りするなど、様々な経験に触れ、危険なことを感じる。 ・身近な秋の自然に触れ、におい、感触、音、色彩などを味わい、様々な事柄に興味や関心を広げる。 ・保育者や玩具を仲立ちとして友達と関わって遊ぶ心地良さを感ずる。</p>	<p>感染症や体調の変化に配慮し、季節の移り変わりを感しながら、外気に触れて体を十分に動かして遊ぶことにより健康増進を図る。 ・保育者の見守りの中で、身の回りのできることを自分でしようとし、できた喜びを味わう。 ・保育者や友達との関わりの中で、簡単な言葉のやりとりをし、会話の楽しさを味わう。 ・興味のあることや経験したことを模倣したり見立てたりしながら、身近な物になってごっこ遊びを楽しむ。</p>
<p>月齢</p>	<p>1歳～1歳6か月未満</p>	<p>1歳6か月～2歳未満</p>	<p>2歳～2歳6か月未満</p>	<p>2歳6か月～3歳未満</p>
<p>子どもの発達</p>	<p>手づかみで食べる事が多いが、スプーンで食べたりコップで飲むようになると、屋敷中に眠くなる事がある。 ・促されて便座に座ろうとすると降り降りする。 ・一人歩きを始める、階段や坂を喜んで昇り降りする。 ・保育者と物のやりとりを喜び、名前を呼ばれ、手を上げて「ハイ」と答える。いろいろな物を覗く、出す、押す、引く、張る、いろいろな所を覗く、虫などの小動物に触れるなど好奇心が旺盛になる。 ・つまむ、めくる、投げる、転がすなど手先を使った遊びを盛んにする。 ・指差し、身振り、片言、一語文で自分の欲求を表す。 ・リズムカルな曲に合わせて身体を動かして喜ぶ。</p>	<p>こぼしながらもスプーンを使って、自分で食べようとする。味の好みや機嫌、体調などで好き嫌いが出始める。 ・タイミングが合うと排泄することもある。 ・帽子をかぶる、ズボンの上げ下げをするなど自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・生活リズムが安定し一回の午睡となり、一定時間眠れるようになる。 ・走れるようになり、追いかける、追いつかれる、周りが喜ぶ。 ・大人の言うことと真似たり、周りが喜ぶことと近づくようになる。 ・同じ場所に住んだり、同じ場で平行的な遊びをしたりする。 ・二語文を話したり、同じ絵本を何度か「よんで」と言うなど自分の要求を言葉で表したり、これはと何度も聞いていたりする。 ・保育者と一緒に手遊びや抱きしめ、くすぐるなどのふれあいや遊びを遊ぶ。</p>	<p>帽子をかぶせたり、木陰やパラソルなどを利用して強い日差しや紫外線防止に留意する。 ・生活の見過しを持って、安心して生活できるよう活や遊びの中で、自分でしようとする気持ちを大切に見守り、手助けしながら「できた」という喜びにつなげていく。 ・排泄感覚をつかんで誇い、トイレでの排泄に慣れさせていく。 ・同じ所で、同じ玩具で遊ぶ、仲間たちと遊ぶ。 ・子どもの指差しや言葉や片言に共感しながら、言葉と物、言葉と行動の意味が結びつくように丁寧な言葉を添えて返していく。 ・手遊び、わらべ歌遊びなどで十分にふれあいが、信頼関係を深め、情緒の安定を図っていく。</p>	<p>苦手な物でも励ましたり、褒めたりして、少しずつ食べてみようとする気持ちが持てるようになる。 ・言葉や仕草で伝えようとする姿を見逃さず、トイレでの排泄につながるようにしていく。 ・ポタンはずしなど興味に合わせようとする姿を促して遊ぶ玩具を用意し、さりげなく手を添え、自分でできた喜びを感じられるようにしていく。 ・安全に確認を十分にし、子どもの好奇心や探索心を十分に満たしながら、自然に触れて遊べるようにする。 ・個々の自我の芽生えを受け止め、言葉を添えたり、側で見守ったり、優しく思いやりを添えていく。 ・安心して気持ちを表出できるようになる。 ・「かきこい、かきこい、かきこい」といって、やりとりをしながら気持ちを伝える喜びが感じられるようになる。</p>
<p>環境構成・保育者の援助</p>	<p>楽しい雰囲気の中で、咀嚼や嚥下を促し、味や食感を味わえるようにしていく。 ・無理なく便座に座るように促したり、他児の様子を見せたりして興味を持たせていく。 ・体に触れたり、絵本を読んだり、歌を歌ったりして安心して眠れるようにする。 ・安全面に十分配慮しながら、園庭や園外保育でのびのびと歩き回って体を動かす、身近な草花などに目が向けられるようにして探索意欲がさらに湧くようにしていく。 ・子どもの指差しや喃語を温かく受け止めて、優しい語りかけや歌いかけ、絵本の読み聞かせなどを通して、発語の意欲につながるようにしていく。 ・一人一人の生活リズムを考慮し、適切な対応がとれるように保育者間で連携を取っていく。</p>	<p>苦手な物でも励ましたり、褒めたりして、少しずつ食べてみようとする気持ちが持てるようになる。 ・言葉や仕草で伝えようとする姿を見逃さず、トイレでの排泄につながるようにしていく。 ・ポタンはずしなど興味に合わせようとする姿を促して遊ぶ玩具を用意し、さりげなく手を添え、自分でできた喜びを感じられるようにしていく。 ・安全に確認を十分にし、子どもの好奇心や探索心を十分に満たしながら、自然に触れて遊べるようにする。 ・個々の自我の芽生えを受け止め、言葉を添えたり、側で見守ったり、優しく思いやりを添えていく。 ・安心して気持ちを表出できるようになる。 ・「かきこい、かきこい、かきこい」といって、やりとりをしながら気持ちを伝える喜びが感じられるようになる。</p>	<p>苦手な物でも励ましたり、褒めたりして、少しずつ食べてみようとする気持ちが持てるようになる。 ・言葉や仕草で伝えようとする姿を見逃さず、トイレでの排泄につながるようにしていく。 ・ポタンはずしなど興味に合わせようとする姿を促して遊ぶ玩具を用意し、さりげなく手を添え、自分でできた喜びを感じられるようにしていく。 ・安全に確認を十分にし、子どもの好奇心や探索心を十分に満たしながら、自然に触れて遊べるようにする。 ・個々の自我の芽生えを受け止め、言葉を添えたり、側で見守ったり、優しく思いやりを添えていく。 ・安心して気持ちを表出できるようになる。 ・「かきこい、かきこい、かきこい」といって、やりとりをしながら気持ちを伝える喜びが感じられるようになる。</p>	<p>自立心の芽生えと依存心に揺れる子どもの気持ちを見極め、必要な援助をしていく。 ・スプーンやフォークを使って食べようとする姿を大切に認めていく。 ・起伏のある道や段差の所を歩く、飛び降りる経験が十分にできるようにしていく。 ・子どもの発見や驚きを見逃さずに受け止め、つがやきに耳を傾けて共感していくことで、言葉が話す楽しさを表現する喜びを味わえるようにしていく。 ・見立て遊びを温かく見守りながら、子どもの様子に応じて必要ない物を用意したり、個々の持つイメージを保育者が仲立ちとなつてつなぐ個々の発達や成長過程を把握して、次年度への課題や配慮を保育者間で共通理解し対応する。</p>
<p>保護者支援</p>	<p>連絡ノートや送迎時の直捷的なコミュニケーションを大切に、対話で日々の様子や生活を伝え、信頼関係を築いていく。</p>	<p>何でもいいやと言いつつ、自分の思いを通そうとする姿は、子どもの発達段階にあることを伝え、温かく受け止めて見守る大切さを感じてもらう。</p>	<p>何でもいいやと言いつつ、自分の思いを通そうとする姿は、子どもの発達段階にあることを伝え、温かく受け止めて見守る大切さを感じてもらう。</p>	<p>何でもいいやと言いつつ、自分の思いを通そうとする姿は、子どもの発達段階にあることを伝え、温かく受け止めて見守る大切さを感じてもらう。</p>

年間指導計画(期別) 2歳児

<p>年間計画</p>	<p>・種類できる保育者に見守られている安心感のもと、簡単な身の回りのことに興味を持ち、自分でできることをしようとする。 ・自分の好きな遊びや場所を見つけ、指先や全身を使った遊びを十分に楽しむ。 ・保育者や友だちとふれあい、一緒にいる心地よさを感じる。 ・保育者との安定した関わりの中で、自己主張をしたがら、自分の思いや欲求を言葉で表そうとする。</p>
<p>子どもの姿・育ち</p>	<p><Ⅰ期> ●新しい環境に戸惑い、登園時に泣いてしまったりもいる。 ●遊びが見付かると、落ち着いて自分の好きな遊びを楽しむ。 <Ⅱ期> ●身支度や生活の仕方を知り、保育者と一緒にやってみようとする。 ●友達との遊びに興味を示し、場を共有して楽しむ姿が見られる。 <Ⅲ期> ●必要な物が分かり、自分で準備したり保育者に手伝わってもらったりしながら、衣服の着脱を行う。 ●友達とごっこ遊びをする。 <Ⅳ期> ●次にすることが分かり、保育者の声かけで行動に移そうとする。 ●保育者や友達と、全身や遊具を使った遊びをくり返し楽しむ。 <Ⅰ期> ●保育者に見守られ、安心して過ごす中で新しい環境や生活に慣れる。 ●自分の好きな遊びを楽しむんだり、友達との遊びに興味をもったりする。 <Ⅱ期> ●保育者に手伝わってもらいながら、身の回りのことをしようとする。 ●気の合う友達と遊びを楽しむ。 <Ⅲ期> ●保育者の声かけで、身の回りのことを自分でしようとする。 ●活動的な遊びを楽しむ。 <Ⅳ期> ●自分から友達と関わりをもち、楽しく遊ぶ。</p>
<p>年間区分</p>	<p>Ⅰ期(4月～5月) ●規則的な生活リズムの中で、気持ちよく過ごす。 ●様々な気持ちを受け止められ、安心して過ごす。 ●楽しい雰囲気の中で、競争をする。 ●戸外で全身を使って遊ぶ。 ●簡単な身支度や生活の仕方を覚える。 ●保育者を仲立ちとして、友達と関わって遊ぶ。 ●友達との遊びに興味をもち、同じことをしようとする。 ●春の身近な自然に触れ、関心をもち、生活に必要な言葉が分かり、簡単なあいさつや返事を返す。 ●手指を使った製作を楽しむ。 ●手遊びや歌を保育者や友達と楽しむ。</p> <p>Ⅱ期(6月～9月) ●梅雨や夏の時期に応じた生活を送り、気持ちよく過ごす。 ●思いや気持ちを受け止められ、安心して自己主張する。 ●食材に興味をもち、食べることが楽しむ。 ●水遊びや戸外遊びで、全身を使って遊ぶ。 ●簡単な身の回りのことをしようとする。 ●保育者や友達と関わりをもち、自分から関わろうとする。 ●水、砂、泥などで遊ぶ。 ●遊びの中で、保育者や友達との言葉のやり取りを楽しむ。 ●身近な素材に親しみ、かいたり、つくったりすることを楽しむ。 ●リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。</p> <p>Ⅲ期(10月～12月) ●気温の変化に応じた生活を送り、健康で快適に過ごす。 ●思いや気持ちを受け止められ、安心して自己主張する。 ●食具の持ち方を意識しながら、楽しく食べる。 ●全身や遊具を使って十分に遊ぶ。 ●毎日の生活の仕方が分かり、できることは自分ですようとする。 ●気の合う友達との遊びの中で、積極的に関わりながら、自分の思いを相手に伝える。 ●秋の自然物に親しむ。 ●保育者や友達といろいろなやり取りを楽しむ中で、言葉で覚える。 ●リズム遊びや体操を楽しむ。 ●身近な素材や用具に親しみ、かいたり切ったりつくったりを楽しむ。</p> <p>Ⅳ期(1月～3月) ●季節の変化に応じた生活を送り、健康で快適に過ごす。 ●気持ちに共感され、進級に向けて意欲をもち。 ●食具のマナーを知り、保育者や友達と楽しく食べながら食べる。 ●全身を使う遊びや、集団での簡単な遊びを楽しむ。 ●生活の見通しをもち、できることは自分ですようとする。 ●友達と積極的に関わりながら、相手にも思いがあることに気づく。 ●冬の自然に親しむ。 ●絵本や劇遊びの中で、言葉のやり取りを楽しむ。 ●経験したことや興味のあることを遊びの中に取り入れて楽しむ。 ●身近な素材や用具を使い、かいたり切ったりつくったり楽しむ。</p>
<p>保護者支援</p>	<p>・送迎時や連絡帳、クラスよりで、日々の子どもの様子を伝え合う中で、保護者との信頼関係を築いていく。 ・春の懇談会を行い、家庭環境や子どもの様子などを知らせる。 ・感染症が流行しやすい時期なので、健康状態を細やかに伝え合う。また、感染症の情報を伝え、予防対策を共通理解していく。 ・「自分ではよい言葉が大切で適切な言葉であることを共通理解し、温かく見守ってほしい」としていき。</p>

3歳児年間指導計画

『なんんでも興味を持って自分からやってみようとする子』

保育目標	<p>・基本的な生活の仕方がわかり、身の回りのことは、自分でしようとする。 ・走ったり、登ったり、跳んだり、踊ったりして、身体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・経験したことや感じたことや思ったことや思ったことを言葉で表そうとする。 ・いろいろな遊びを通して、保育者や友達とふれあい、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ・身近な自然や動植物にふれて親しみを感ずる。</p>			
年間区分	I 期(4月～5月)	II 期(6月～8月)	III 期(9月～12月)	
ねらい	<p>・保育者との関わりの中で、生活の流れや仕方を知り、安心して過ごす。 ・安心できる保育者の元で遊んだり、好きな場所や気に入った玩具で思い思いに遊ぼうとする。 ・絵本や話を聞いた後、歌や手遊びをして楽しさを感じる。</p>	<p>・水砂泥などに触れて、感触を楽しむ。 ・保育者や周りの子と触れ合う楽しさを感じる。 ・身近な動植物に興味を持つ。 ・生活や遊びに必要な言葉を知り、使おうとする。</p>	<p>・身近な秋の自然に触れ、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ・経験したことや思ったことを自分なりの言葉で表そうとする。 ・色々な素材の触れあいで自立したり自分なりのイメージを膨らませながら遊ぶことを喜ぶ。 ・歌や手遊び、模造いたり、なりきったりしてごっこ遊びをする。</p>	
	<p>・子どもは成長や発達を促して、保護者と連絡を密にしながら、個々に応じて適切に対応していく。 ・手洗いやうがいなどの大切さを知らせ、身につけられるようにする。</p>	<p>・風通しを良くし、個々の健康状態に気を配りながらゆとりとりとかわり、水分補給や休養を十分にとり、心地よく過ごせるようにする。 ・また、感染症にも留意する。</p>	<p>・外気温の差や体調などに気を付けながら、手洗いやうがい、着る習慣を身につけていくようにする。 ・また、活動と休息のバランスや水分補給に配慮する。</p>	
養護	<p>・一人一人の子どもの気持ちを大切に、保育者との信頼関係の中で、安心して過ごせるようにする。</p>	<p>・安心できる保育者との元で、自分の思いを安心して出せるようにする。</p>	<p>・子どもは成長を認め、保育者との信頼関係を築けるようにする。</p>	
教育	健康	<p>・生活する場所や持ち物を始末する場所が分り、身の回りのことを少しずつ保育者と一緒にしてみようとする。 ・おいかけてごっこや固定遊具で体を動かして遊ぼうとする。</p>	<p>・保育者に見守られながら、自分の身の回りのことを自分でしようとする。 ・鉄棒を使って、前回りに興味を持ち、やってみようとする。</p>	<p>・保育者に見守られながら、できることは自分でしようとする。 ・戸外で友達や保育者と一緒にボール、鉄棒、なわなどで体を十分に動かして遊びを楽しむ。</p>
	人間関係	<p>・自分のクラスが分り、担任や友達を覚え、名前を呼んでから挨拶したり、名前を呼ばれたら返事を返す。 ・保育者の側で玩具などに触れ、一緒に遊んだりする。</p>	<p>・同じ遊びをしている子に関心をもち、気になる子と同じことをして遊ぶ。</p>	<p>・ごっこ遊びや簡単なルールのある集団遊びを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ・異年齢児と一緒に遊んだり、出かけたります。</p>
環境設定	環境	<p>・顔花や草花を見たり、触れたり、えさをあげようとする。 ・自分のしたい遊びや気に入った場所を見つけて遊ぶ。</p>	<p>・植えた苗に水やりをし、生長を感じて収穫する。 ・身近な小動物を見たり、触れたりする。</p>	<p>・冬の自然(雪、水、雪など)にふれ、驚きや関心をもち遊ぶ。 ・伝承あそびに興味を持ち、遊んでみる。</p>
	言葉	<p>・保育者の話を聞いたり、絵本や紙芝居を観る。 ・したいこととしてほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする。</p>	<p>・まわりの子と関わらなから、「かして」「いれて」「いいよ」「ありがとう」などの言葉を使い、遊びの中でやり取りをする。</p>	<p>・寒いことややうれいことややうれいことなどや言葉で言ったり、自分なりに伝えようとする。</p>
配慮事項	表現	<p>・砂、粘土、クレヨン、積み木、ブロックなどに触れて遊ぶ。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをする。</p>	<p>・水、砂、泥などに触れて感触を楽しみながら、伸び伸びと遊ぶ。 ・紙、のり、はさみ、絵の具などを使ってみようとする。</p>	<p>・生活や遊びの中で経験した興味を持った場面を思い浮かべながら、簡単なごっこ遊びをする。</p>
	環境設定	<p>・各自の持ち物の始末がしやすいようにマークをつける。 ・子どもは動線や考えた動線にした後、着て遊ぶ遊べるようにコーナーを工夫し、子どもの興味関心にあつた玩具を用意する。 ・靴しみややすい絵本を用意し、繰り返し読み聞かせをする。</p>	<p>・園外散歩に出かけ、自然に触れて遊ぶ機会を多く持つ。 ・自然物を利用して遊びを準備していく。 ・季節にあつた絵本や図鑑を用意する。 ・自分のイメージしたごっこ遊びや、作ったりできるような材料や素材を用意したり、子どもの思いに合つた物を一緒に探し、のりやりをして、登場する物になりきり遊ぶ。</p>	<p>・暖かい時を計らって戸外に出て遊べるようにしていく。 ・異年齢児と交流する機会や場を設けていく。 ・伝承あそびを継続してできるように素材や玩具を用意し、遊びやすいコーナーを設ける。 ・ごっこ遊びに必要な道具や用具を準備し、遊びのイメージが持てるようにしていく。</p>
保育	配慮事項	<p>・生活の仕方を無理なく覚えていけるように、保育者がやってみせたり、一緒にやり、繰り返して練習する。 ・子どもの動きに合わせてふれあいをしながら一緒に遊び、体を動かす心地良さを味わえるようにしていく。 ・また、遊具や玩具などの使い方を知らせ、安全に遊べるようにする。 ・子どもと一緒に草花や小動物を見たり触れたりして命の大切さを伝えながら、子どもの発見や驚きに共感していく。</p>	<p>・園外で保育者と一緒に遊びながら楽しさを共有し、全身を使って思いっきり遊ぶ心地良さを味わえるようにする。 ・自然に触れ、保育者自身の感動を伝えたり、子どもは発見や共感していき、保育者もイメージを伝え合ったり、一緒に遊び、それによってイメージがより具体的になり、表現の力を伸ばしていき、遊びの思いや表現が豊かになっていく。</p>	<p>・身の回りのことを自分のペースでしようとする姿を見守り、できるようにすることや、やってみようとする意欲を大いに認め、成長を一緒に喜んでいく。 ・冬の寒さ、風の冷たさなどを子どもと共に感じ合ったり、言葉で楽しんだり、子どもは発見の声を共感する。 ・友達と一緒に遊びたいという気持ちを伝えたり、相手の思いを保育者が分かちあうように言葉で伝え、相手の思いに少しづつ気づけるようにしていく。</p>
	食育	<p>・園の給食に慣れ、保育者や友達と一緒に食べる楽しさを感じる。 ・少しずつ箸を使ってみようとする。 ・食べられない食物でも、少しずつ食べてみようとする。</p>	<p>・箸や食器を正しく持つて食べようとする。 ・車取りや水やりなど世話をした野菜を収穫し、食べたります。</p>	<p>・園外で保育者と一緒に遊ぶ楽しさを共有し、全身を使って思いっきり遊ぶ心地良さを味わえるようにする。 ・自然に触れ、保育者自身の感動を伝えたり、子どもは発見や共感していき、保育者もイメージを伝え合ったり、一緒に遊び、それによってイメージがより具体的になり、表現の力を伸ばしていき、遊びの思いや表現が豊かになっていく。</p>
保護者等への支援	<p>・保護者に安心してもらえるよう、登壇園時や個別懇談で家庭での様子を聞いたり、園での姿を伝えたりするなど話し合う機会を多くもち、保護者との信頼関係を築いていく。 ・また、保育参観やクラス懇談会で子どもの様子を見ても良かったり、保護者同士で意見交換する場を作る。</p>			

4歳年間指導計画

『友達と一緒にいろいろなることに興味を持ち挑戦。』

- ・全身を動かして友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。・食事の仕方やあいさつ、衣服の着脱など生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。
 ・身近な動植物と触れ、興味・関心を広げながら大切に育てることを知る。・自分の思いを相手に伝えたり、相手の話に耳を傾けたりする。
 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現する楽しさを味わう。・自分で遊びを見つけたら、工夫したりして楽しむ。

年間区分	I 期(4月～6月)	II 期(7月～9月)	III 期(10月～12月)	IV 期(1月～3月)
ねらい	・新しい環境に慣れ、生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分で行おうとする。 ・友だちと触れ合いながら、好きな遊びを十分に楽しむ。	・自由に活動できる環境設定のもと、いろいろなことに興味関心をもつて取り組む。 ・自分の思いを出しながら、少しずつ友達思いにも気が付き、一緒に遊ぶことを楽しむ。	・新しいことやチャレンジしてみたいことが増え、何度も繰り返しながら取り組む。 ・簡単なルールを共有しながら友達と遊ぶことを楽しむ。	・友達の気持ちが分かるようになり助け合う。 ・年下の子の世話をして関わることを喜ぶ。 ・友達とのつながりを深めながら、遊びを工夫したり、最後までやり通す達成感を味わい、自信を持って活動する。
養護	・一人ひとりの健康状態や発達状態を把握して適切に対応できるように配慮する。	・手洗い、うがい、着替え、水分補給など、気候や体調にも合わせて、自分で清潔や健康に気をつけるようにしていく。 ・一人ひとりの体調や気温の変化に留意して活動と休息のバランスに配慮する。	・清潔や健康に自ら気をつけ、感染症予防や体力づくりを行っていく、健康な体を持続していく。	・衛生的な環境を整え、感染症予防について知らせ、子どもが自分で自分の体を守れるようにする。
情緒	・新しい環境の中でも保育者や好きな遊びを通して、安心できる場所を確保していく。	・生活に見通しをもち、期待思って快適に過ごせるように、言葉かけをしていく。	・休息を十分取り、失敗してもあきらめず、何度も挑戦することの大切さを知らせ、励ましたり自信を持たせたりしていく。	・進級する期待と喜びが持てるようにしていく。
健康	・清潔や安全な遊び方をしり、戸外や散歩に出かけて、伸び伸びと過ごす。	・プールや水遊びなど、夏の遊びを十分に味わい、五感を使って楽しむ。	・戸外活動を通して思い切り体を動かす、チャレンジしたり練習したりして、体力をつけていく。	・水、雪、氷、北風など冬の自然に触れながら、発見したりして、自然に親しむ。
人間関係	・保育者や友だちが入った友達と過ごすことで安心をして、少しずつ信頼関係を築いていく。	・自分の思いと友達の思いの違いに気づき、保育者などに話を聞いてもらったり、仲立ちをしてもらい、つながりを深めていく。	・同じ目標をもつて取り組む、一緒に遊ぶことを喜ぶ。	・友達の思いにも気づけるようになってきて、一緒に遊ぶ楽しみ、工夫したり、助け合ったり、遊ぶことが楽しく信頼関係を深める。
教育	・新しい環境の中でも、気に入った場所を見つけて安心して過ごせるようになる。	・プール遊びや水遊び、水遊びなど夏ならではの遊びを十分に楽しむ。	・広々とした自然の中で、草木や木の葉、昆虫などをじっくり探したり、観察して興味関心を深めていく。	・水、雪、氷、北風など冬の自然に触れながら、発見したりして、自然に親しむ。
環境	・保育者に話を聞いてもらったり、気に入った絵本や紙芝居を誠心でもらうことを喜び、お話しに興味関心をもつ。	・保育者に話を聞いてもらったり、友達の気持ちも聞こうとする。 ・相手の気持ちにも共感しながら、自分の思いを伝える。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・自分の思いを自分の言葉でみんなに伝えたり、発表したり、聞いてもらうことを楽しむ。
言葉	・自分の思いを自分なりに伝えようとする。	・絵具やクレヨン、泥や水など様々な素材に触れて、それぞの色の色や感触、心地よさを味わい、のびのびと表現して楽しむ。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・感じたことや考えたことを自分たちのやり方で工夫したり、発見したりしながら、作り出していく楽しさを覚える。
表現	・身近な草花で見えて遊びを楽しむ。 ・生活の出来事を自分なりの表現で楽しむ。	・水遊びや泥遊びなど夏ならではの遊びを十分に楽しむように、衛生管理を徹底して、のびのびと遊ぶ時間や、服装、場所を設ける。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・感じたことや考えたことを自分たちのやり方で工夫したり、発見したりしながら、作り出していく楽しさを覚える。
環境設定	・新しい環境になれ、安心して過ごせるように、一日の流れを規則的に行ったり、好きな遊びを取り組めるようにいろいろな玩具を設定しておく。 ・園での生活の仕方や安全な遊具や用具の使い方を、片づけ方を知らせていく。	・水遊びや泥遊びなど夏ならではの遊びを十分に楽しむように、衛生管理を徹底して、のびのびと遊ぶ時間や、服装、場所を設ける。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・感じたことや考えたことを自分たちのやり方で工夫したり、発見したりしながら、作り出していく楽しさを覚える。
配慮事項	・朝の受け入れや、保護者との連絡など、一日を安心して過ごせるように、コミュニケーションやスキップなどを十分にとり、安心できる存在、場慣れするようにこまめにかかるといって、気をつける。	・水遊びや泥遊びなど夏ならではの遊びを十分に楽しむように、衛生管理を徹底して、のびのびと遊ぶ時間や、服装、場所を設ける。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・感じたことや考えたことを自分たちのやり方で工夫したり、発見したりしながら、作り出していく楽しさを覚える。
配慮事項	・朝の受け入れや、保護者との連絡など、一日を安心して過ごせるように、コミュニケーションやスキップなどを十分にとり、安心できる存在、場慣れするようにこまめにかかるといって、気をつける。	・水遊びや泥遊びなど夏ならではの遊びを十分に楽しむように、衛生管理を徹底して、のびのびと遊ぶ時間や、服装、場所を設ける。	・お話しや劇遊びなどイメージを友達と共有しながら、自分たちの言葉で表現する楽しさを味わう。	・感じたことや考えたことを自分たちのやり方で工夫したり、発見したりしながら、作り出していく楽しさを覚える。
食育	・それぞれの好き嫌いや食べる量などを把握して、食べきれた喜びを感じられるように配慮する。 ・者の持ち方や正しい姿勢で食べることを知らせていく。 ・戸外活動での知の野菜を通して、食に興味を持ってもらうようにしていく。	・野菜の世話や収穫を通して、苦味なものも食べてみようと思ったり、生長の過程を知ることや食材にも命があることを知る。	・おもひやりや季節のクッキングを通して、育てる楽しみ、収穫する楽しみ、味わう楽しみを総合的に経験していく。	・来年度に向けて、畑の準備をしたり、種植えをして、また次の収穫を楽しむようにする。 ・行事に参加して季節の食材を知る。 ・絵本やお話しを通して自分の体や栄養に興味を持てるようにしていく。
保護者等への支援	・園での新しい生活の様子などをこまめに知らせたり、家庭訪問や懇談でそれぞれの悩みや思いを把握する。	・保護者とも連絡を密にとることにより、信頼関係を築いていく。子ども成長の経過を見通しなどを知らせていく。	・行事や活動をおして、子どもががんばっている姿や、成長していく姿を伝える。	・懇談会にて一年間の子ども成長ぶりを共に喜び、来年度に向けて期待と課題を話し合っていく。

(3) 週の計画及び日課表

ア. 週計画

曜日	園児	職員	備考
月	保健・安全・生活・給食指導	安全点検・環境整備・保育室整備	
火		園内研究(第2)職員会(第1・第3)	子育て広場
水		リーダー会	
木	絵本貸し出し	職員研修(第4)	子育て広場
金	↓絵本貸し出し・所持品整理	学年会・教材研究	
土	所持品整理	砂場整備・環境整備	

イ. 日課表

<乳児>

時間	子どもの活動	保育者の援助および留意点
7:30	早朝登園 ・手洗い・検温 ・排泄(おむつ交換) ・好きな遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの状況に応じた声掛けをして笑顔で迎える。 ・視診を丁寧に行い、健康状態を把握すると共に異常のあった場合は適切に対応する。 ・保護者からの連絡・伝言を受けた場合はノートに記録をし、担任に伝える。 ・検温は保護者が行き、保育者は体温計と検温表を見て確認する。 ・排泄、おむつ交換、着替えの準備ができたかを確認をし、保護者を見送る。 ・連絡帳の連絡事項を確認する。
8:30	登園	
9:10	おやつ 好きな遊び (戸外・室内) 手洗い 排泄(おむつ交換)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルを拭き、手洗いを子どもと行き、おしぼりを用意し、配膳をする。 ・個々の「食いたい」という気持ちを大切にし、手洗いまたはおしぼりで手を清潔にし、挨拶を促し食べるようにする。 ・楽しい雰囲気の中でおやつが食べられるようにする。 ・安全に留意し、したい遊びが十分に出来るよう環境を整える。 ・言葉の助長や運動機能を伸ばすようにする。また、戸外遊びや散歩などの経験をとり入れ、様々な経験ができるようにする。 ・遊びの場面では、できるだけ一人一人の思いが満足できるように環境を工夫し、整え、自分つくりの手助けをする。 ・戸外遊びの時は帽子をかぶらせるようにし、保育室に戻ってきてから水分の補給ができるように用意しておく。 ・こまめなおむつ交換に心掛ける。また、排泄間隔を把握してトイレに誘い、排尿を促していく。 ・子どもの自ら行動する姿を大切に、段階を追って気長に排泄の完成を助長していく。 ・また、個々の排泄間隔をつかんでいく。
11:00	食事 排泄(おむつ交換) 着替え 昼寝	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳用のエプロン・三角巾・マスクを着用する。 ・配膳は個々に合わせて、またはその日の体調に合わせた加減をして盛り付ける。 ・個々に合った食事指導に心掛け、楽しい雰囲気の中で食べられるようにしていく。 ・衣服の着脱は手伝いながら、出来るところは自分でやってみようとする気持ちを大切にしていく。 ・そばについて体をさすったり、添い寝をしたり、静かに歌を歌ったりして、安心して入眠ができるようにしていく。 ・眠っているときは観察表で15分ごとにチェックしていく。 ・連絡帳に連絡事項を記入する。 ・一人一人に声をかけ、気持ちよく目覚められるように心がける。
14:00	目覚め	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの顔色、機嫌の良否、身体の状態を見ながら、排泄・おむつ交換をして身なりを整える。 ・ゆったりとした気分で機嫌よく食べられるようにする。 ・保護者に子どもの様子や連絡事項などを伝え、子どもに十分言葉かけをして機嫌よく帰す。
15:00	おやつ 帰りの視診 降園 延長保育 遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育担当者に子どもの様子を伝え、引き継ぐ。 ・保護者への連絡事項があれば伝える。 ・くつろいだ雰囲気の中でふれ合いを持ちながら、好きな遊びができるように設定する。 ・人数が少なくなっても、不安や寂しい気持ちを持たせないよう心掛ける。
17:00	おやつ	
19:00	最終降園	

<幼児>

時間	子どもの活動	保育者の援助及び留意点
7:30	・ 早朝保育 受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早番保育士がパート保育士と連携をとって受け入れ、電話対応、連絡事項の伝達などを行う。 ・ 不安な気持ちなどを汲み取り、スキンシップをはかりながら温かい雰囲気の中で受け入れを行い、遊びを見つけやすいように玩具などを設定し、一緒に遊びを楽しむ。 ・ 担任に連絡事項などを伝え、引き渡す。 ・ 保育室の換気、採光、植物の世話、管理に気をつけて気持ちよく入室できるように心がける。 ・ 子どもと保護者一人一人とあいさつを交わし、視診や様子を伺う。
8:30	・ 登園 ・ あいさつ ・ 視診をうける ・ 持ち物の始末をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち物の始末を進んでできるように、声掛けをしたり、一緒に行ったり、見守ったりする。 ・ 母子分離がスムーズにできるように、遊びに誘い、気持ちを受け止めていく。 ・ 出欠席を確認して、職員室に報告をする。 ・ 保育者は態度、表情、服装、言葉遣い、声の大きさ、などすべてが子どもに影響する事を認識して保育に取り組む。 ・ 保育目標、経営方針を把握して活動内容を計画し、適切な援助を行い、子どもの姿に合わせて活動を進める。
9:00	・ 戸外遊び、散歩、 ・ クラス活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な遊びを経験できるように、環境、教材、活動内容を工夫して、子どもとともに楽しむ。 ・ 安全に気をつけ、常に周りの子どもや他の保育者の動きを把握するように心がける。 ・ 場を離れる時は必ず他の保育者に声をかけて、子どもの観察をお願いする。戻ったらその旨も伝える。 ・ 特に園庭などでは異年齢の交流の場として活かし、他のクラスの子にも分け隔てなく年齢にあった援助を行う。 ・トラブルが起きた時は、状況を把握してケガの有無を確かめ、子どもの気持ちを平等に受け止めて、両方が納得いき、次につながるように援助、配慮をする。 ・ クラス活動で、園庭やホールなど使用する場合は事前に週案で計画をたて、他のクラスと調整をとって、朝礼で全体に連絡をする。 ・ 園外活動（散歩、社会見学）などでは、交通安全、公共のマナーを保育者が見本となって知らせていく。（歩道の歩き方、あいさつ、ゴミひろい、自然との触れ合いなど） ・ 片付けは子どもの姿に合わせて、声かけをしたりして知らせていく。保育者が見本となり、活動の一つとしてねらいをもって取り組む。
11:30	・ 片付け ・ 排泄 ・ 手洗い・うがい ・ 昼食の準備 ・ 昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が身に付くように声掛け、援助、指導を行う。 ・ 食育を推進し、年齢にあった指導で食に対して興味関心を育て、楽しい雰囲気の中で食事を意欲的に取る。 ・ 当番活動は子どもの自発的な活動として取り組み、危険のないように配置や内容を配慮する。 ・ 食器の扱いや、姿勢、マナーなど保育者が見本となり、総合的に指導する。 ・ 食事の量は年齢、子どもの姿、体調に合わせて調節をして、意欲的に食べられるように配慮する。 ・ うがい、歯磨き指導を行う。 ・ 年齢にあわせて保育者と一緒に室内の掃除を行う。 ・ 食後30分程は室内で静かな活動を楽しめるように設定する。 ・ 午睡は年齢、子どもの姿に合わせて行い、採光、換気に気をつけ、安心して身体を休められるように配慮する。 ・ 午後は身心の疲労から注意力が散漫となりケガや事故が多い事を認識して、安全に十分配慮し、活動内容を工夫する。 ・ 必要に応じて水分補給や休息ができるように、やかんや水筒、日陰の設定を行う。 ・ 年齢にあわせて身の回りのことは自分でやろうとする気持ちを育て、取り組む時間や配置など配慮する。
12:30	・ 片付け ・ うがい ・ 歯磨き ・ 掃除 ・ 午睡 ・ 休息を兼ねた遊び ・ 戸外遊び ・ 室内遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の活動を振り返り、明日への楽しみとなるような話しをしたり、絵本をよんだり、歌を歌ったりして、楽しい気持ちで降園へ気持ちを切り替えられるように配慮する。 ・ ケガやトラブル、子どもの様子など保護者に伝え、連絡ノートに記入して知らせる。
14:30	片付け 降園準備 降園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全を啓発し、迎いの保護者を一人一人確認して降園させる。 ・ 各保育室で当番、担当が出欠席、降園時間、視診をして受け入れをする。 ・ 担任からの連絡事項を受ける。（子ども様子、ケガ、保護者への連絡など） ・ 子どもの疲労度、心の状態などを把握して、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように配慮する。
15:00	延長保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケガ、事故、トラブルがあった時は直ちに状況を園長、主任、担任に報告して処置を行う。 ・ 異年齢の自然な関わりを見守り、仲立ち、援助をする。 ・ 片付けは、お迎えの時間を配慮して、気持ちが切り替えられるように前もって声を掛けたりして、一緒に行いながら促す。 ・ 連絡事項を伝えたり、迎いの保護者を一人一人確認して降園させる。 ・ 保護者からの連絡事項を受け、確実に担任などに報告する。
19:00	最終降園	

- * 朝、当番で担任が不在の時や、休みの時、戸外で受け入れをする場合などは、ホワイトボードなどにその旨を記入して保護者にわかるように表示し、隣のクラスと連携をとって受け入れを行う。
- * ケガ、事故があったらすぐに園長、主任、担任に知らせて状況把握、処置を行う。必要に応じて保護者に連絡をし、病院へ連れて行く。「申し訳ありませんでした」と誠意をもって対応をする。内容によっては夕方、もう一度家庭へ連絡をとって様子を聞いたりする。
- * 連絡ノートを有効に活用して、家庭での様子を把握し、園での様子を伝え、保護者との信頼関係を大切にしていける。記入する時間は昼寝や休憩時間など保育に支障のないように注意する。
- * 行事や持ち物など連絡事項は1週間以上前もってクラスだよりや保育室のホワイトボードで知らせる。特に延長保育利用の保護者などにも確実に連絡が伝わるように配慮する。

(4) 心の教育に関する指導の計画

(ア) 道徳性の芽生えを培う保育

- ア 基本的な生活習慣の形成を図る。
 - ・自立心を育み、自己発揮と自己抑制の調和の取れた自律性を育てる。
- イ 他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちを持って行動できるようにする。
 - ・友だちと楽しく過ごすためには守らなければならないことがあることに気づく。
 - ・仲間と楽しく過ごしながらいざこざや葛藤を経験し、自他の気持ちや欲求が異なることに気づく。
- ウ 自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにする。
 - ・自然の美しさにふれたり、身近な動植物に親しみ、世話をしたりする中で、生命あるものへの感性や弱いものをいたわる気持ちが持てるようにする。

(イ) 『命』を大切にしようとする保育

- ア 人や他の生物とのかかわりの中で、命を大切にできる心を育てる。
 - ・周りの大人から温かい愛情を受け、大切にされることによって自分の存在に気づく。
 - ・生活、遊びの中で自分の命の存在に気づかせることから思いやる心を芽生えさせる。
 - ・色々な生物の存在を知り、飼育、栽培等を通して、自然環境の大切さに気づく。
- イ 生きる力の基礎を育てる。
 - ・丈夫な体を作ることにより、生きていることの実感を味わう。
 - ・ふれあい遊びの中で親子の絆、つながりを深める。
 - ・5歳児は子どもワークショップを受け、命を大切にすることを学ぶ。(6月28、29、30日)

(5) 健康教育に関する指導の計画

(ア) 基本的な生活習慣に関する指導

項目	活動	留意点
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで排泄をする ・トイレの使い方を知る ・排泄の後始末をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に介助されながら排泄の仕方を知らせていく ・排泄の習慣を身につけ、自主的に行えるようにする
休息 睡眠	<ul style="list-style-type: none"> ・汗をかいたら拭く ・水分の補給をする ・疲れた時に休息をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・休息のとり方や汗をかいた時の始末の仕方を知らせる ・お昼寝等、休息の機会をつくり、心身の疲れをとる
衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れた衣服を着替える ・衣服の調節をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に介助されながら衣服の着脱を自分でしようとする自分から衣服の着脱をし、必要に応じて調節をする
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・呼ばれたら返事をする ・日常生活に必要な挨拶がわかり自分から言おうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら返事をすることを知らせ、日常生活の中で繰り返す、知らせていく ・日常生活に必要な挨拶の仕方をしらせ、その場にあった挨拶をする

(イ) 食育に関する指導

『食育』とは、「食べること」の基本的な知識と常識的な営みを伝えることであり、発育・発達する子どもたちに食べることが人間の身体と心を作る行為であることをわからせることである。

ア 成長区分と食育目標

	子どもの成長	食育目標
0～1.5歳	生きるための本能的な行動を育てる時期	よくかんで食べる
1.5歳～3歳頃	毎日、繰り返される集団的な行動を育てる時期	きちんと3食食べる
3歳～4.5歳頃	自分で考えて食べる知的な行動を育てる時期	何でも食べる
4.5歳～就学前	社会の一員として生きる知的な行動を育てる時期	みんなと食べる

イ 給食指導の計画

目標…乳幼児期における元気な心と体をつくるための望ましい食習慣を身につける。

ね ら い	
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した人間関係の中で食事をし、心地よい生活を送る。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で食べようとする。
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を仲立ちとして友だちと共に食事をし、一緒に食べる。 ・生活や遊びの中で食べることへの興味や関心を持つ。 ・食事に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと共に食事をし、一緒に食べる楽しさを味わう。 ・様々な経験を通して、食べることへの興味や関心を持つ。 ・食事に必要な基本的習慣が身につくようにする。
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと共に食事をし、一緒に食べる楽しさを味わう。 ・様々な経験を通して、食べることへの興味や関心を持ったり、食べ物の大切さに気づいたりする。 ・食事に必要な基本的な習慣を身につける。
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと共に食事をし、一緒に食べる楽しさを味わう。 ・食事に必要な基本的な習慣を身につける。 ・様々な経験を通して、食べることへの興味や関心を持つ。 ・栽培・調理・食事を通して、食べ物の大切さや感謝する気持ちを持ち命の大切さに気づく。

(6) 安全教育に関する指導の計画

◎保健管理・保健指導の重点

- ア 幼児一人ひとりの視診を重視し、疾病の早期発見に努め、適切な処置をする。
- イ 健康で明るい生活を送るために必要な生活習慣や行動を身につける。
- ウ 戸外遊びを積極的に取り入れ、体力の増進に努める。
- エ 保育室の換気、採光、照明等に注意をはらい、快適な環境を整える。
- オ 家庭と連絡を取りあい指導を進める。

◎安全指導の重点

- ア 施設、設備、遊具等の整備点検を行い、園環境の安全確保に努める。
- イ 遊具の使い方や二階テラスや階段における安全指導を徹底し、事故防止に努める。
- ウ 交通安全週間及び0の日を「交通安全指導日」とし、事故防止に努める。

◎安全指導計画（生活・交通）

生活安全	交通安全
<ul style="list-style-type: none"> ・教材・用具・遊具の正しい扱い方を知る ・園内外の危険な場所を知り、近づかないようにする ・生活に必要ないろいろなきまりを知り、それらを守って安全に過ごすようにする ・危険が生じたら、直ちに周りにいる大人に知らせるようにする ・知らない人について行ったり、ひとりで園外に出たりしないようにする。 ・自分から危険を察知し、安全に生活しようとする気持ちをもつ ・怪我をしたら保育者に告げるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい交通安全の知識を身につける (右側歩行、手あげ横断、左右安全確認) ・道路や車の近くで遊ばない ・道路への飛び出しの危険性を知る ・信号の見方や横断歩道の渡り方等、日々の登降園を通し、再確認をする ・雨の日の歩行や雪道や凍結路の歩行の仕方を知る ・いろいろな機会を通して、交通安全の意識の高揚と実践力を身につけるようにする (登降園・交通安全指導日・交通安全教室・園外保育・遠足等)

◎不審者対策

- ア 門は必ず閉めておく
- イ 外来者を常に意識し、確認を素早く行う
- ウ 不測の事態に備え手、警笛、防犯ベルを携帯する
- エ 非常ボタン、防犯スプレー等の設置し非常時に備える
- オ 不審者対応訓練を行い、非常時に備える

◎防災指導計画（地震・火災・風水害）

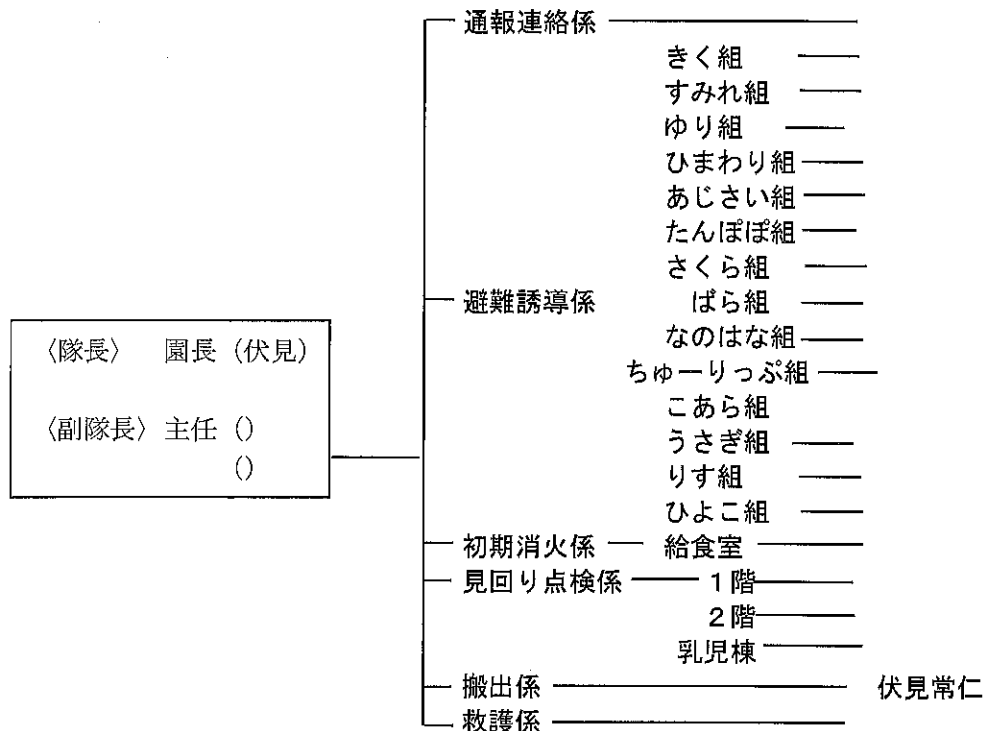
多くの人命を預かる施設においては不慮の災害に備え、常に訓練を行い事故の発生に万全を期することができるようにしておく必要がある。

- ア 指導計画に基づき定期的に避難訓練をする。また、消防署による指導も受ける。
- イ 災害の場合の想定をいろいろ変え予告の仕方や時間帯を工夫して行う。
- ウ 非常の際には担任保育者はクラス全体の人員を把握し、乳幼児の生命の安全第一に努める。
- エ 各係りを組織し、本部との連絡を密にし、指示に従って手際よく園児を避難場所に誘導する。

地震	火災	風水害
<ul style="list-style-type: none"> ・地震の振動状況を的確につかみ園児の安全確保を第一に避難誘導をする ・出口の確保、電気、ガス栓を止め被害を最小限に食い止める ・状況に応じて保護者に連絡し、安全に帰宅させる ・避難訓練や視聴覚教材を活用し、地震時の避難方法を指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生と同時に初期消火と避難誘導を行い、園児の安全確保にあたる ・燃焼状況により、第二避難場所へ安全に避難誘導をする ・状況に応じ保護者に連絡し、安全に帰宅させる ・避難訓練や消防署員を招聘し、火災時の避難方法を指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・登園前に暴風警報が発令された場合は、警報解除まで家庭待機し、午前 8 時 30 分迄に解除されたら登園する。(ただし道路状況に十分留意すること) ・登園後、暴風警報が発令された場合は保護者の迎えにより帰宅させる ・風が激しい場合は、園内の安全な場所に保護する

◎非常時の指示・連絡体制

ア 自衛消防隊組織 ○組織…火災、その他、災害発生時の被害を最小限にとどめるため下記のとおり消防組織を編成する。



○避難場所 第一避難場所…倉庫前 第二避難場所…ちびっこ広場

○緊急連絡場所 TEL 119番 市役所保育課 TEL 34-6809 伏見園長宅 TEL 0533-86-7311 成瀬主任宅 TEL 0565-31-5412 民間依頼者…堀 TEL 0565-77-2980

イ 非常時に関する留意事項

- ・子どもの出席状況の把握を常に明確にしておく。
- ・保育室、ワークスペース、園庭、その他の出入り口には危険な物を置かないように、常に整理整頓をしておく。
- ・中央階段が使用できない時は救助袋（屋上・5歳保育室テラス）で避難をさせる。

(7) 連携による交流活動や行事などの指導計画

◎幼小連携による指導の計画

- ア 園児の就学先小学校と連絡会を持ち、話し合いをしたことを保育の参考に生かしていく。
 イ こども発達センターとの交流を年4～5回持ち、いろいろな個性をもった子がいることを子どもたちに知らせる機会とする。

◎地域・家庭との連携による指導の計画

家庭や地域と連携をし、子どもたちの健やかな成長を願っていく。

ア 家庭との連携

- ・園日より、クラス日より等で子どもたちの発達や成長を知らせ、子ども理解を深めていただき、より子どもたちの成長を願って協力を得たりしていくようにする。
- ・一日パパママ保育師を開催し、園での子どもの生活を理解していただく機会とする。

イ 地域との連携

<高齢者とのふれあい>

園児の祖父母や地域の高齢者を招待、訪問したりして季節的行事や伝統的な遊びを一緒にし、世代間のふれあいをする。

- 7月 地域の老人施設の高齢者とのふれあい会
 10月 運動会に招待する。
 11月 手づくり遊びを楽しむ会で一緒に遊ぶ。
 2月 お茶会に招待する。

<未就園児とのふれあい>

地域の未就園児を園の行事に招待して交流を図り、保護者には園の子どもの姿や雰囲気を知ってもらう。

- 7月 移動動物園
 10月 運動会に招待する。
 2月 一日入園に招待する。

<子育て広場>

毎週火・木曜日午前9時30分～11時30分までの間、就学前の乳幼児と保護者を対象に、地域交流室と園庭を開放する。

<こども園卒園児とのふれあい>

保育園を卒園した児童を招待し、ふれあいを楽しむ。

<子ども発達センターの子どもとのふれあい>

子ども発達センターの子どもを招待したり、訪問したりしてふれあいを楽しむ。

(8) 環境教育に関する指導の計画

乳幼児が身近な環境とのかかわりを通して、心を揺さぶられるような体験を豊かにし、自然や物を大切に思ったり、命の尊さを感じたりする積み重ねが、やがては自分たちを取り巻く環境を大切にしようとする力を育てることにつながると思う。そのためには保育者がモデルとして行動したり、家庭との連携をとりながら指導していく。

自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物の世話や花、野菜の栽培活動を通し、生命の尊さや育てる事の喜びを味わわせる。(インコ・朝顔・夕顔・夏野菜、じゃがいも、さつまいもの栽培)・動物愛護の指導教室(6月)予定 ・園外に積極的に出かけていき、四季折々の自然とふれあう体験の中で感動する心や好奇心を育む。(まき公園、ちびっこ公園、おばけランド、農道等) ・地域の人々とのふれあいや地域の行事に参加することで、地域の様子に関心や親しみを持つ。(高齢者・未就園児との交流、盆踊り、コミュニティ運動会)
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の整備に心がけ、乳幼児が楽しく安全に遊べる環境を作る。 ・身近な大人(親、保育者)がモデルとなり、資源や物を大切に育てる。(ゴミのポイ捨てはしない。自分が出したゴミはゴミ箱に分けて捨てる。リサイクル活動。外で出たゴミは家に持ち帰る。)
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 水や電気を大切にすることを毎日の保育の中で気づくようにしていく。また、園便り等で家庭への啓蒙を図る。 ・環境に関する絵本、紙芝居、ビデオ等を通して環境問題に関心を持たせる。

(9) 障がいのある幼児に対する指導の計画

障がいのある乳幼児に対する指導の重点及び交流教育等障がいのある乳幼児の理解促進に関する指導

- ア 個の発達をとらえ、それに応じた指導と援助をしていく。
- イ 障がい児への理解を深め、職員が共通理解して指導にあたる。
- ウ 保護者と常に連携をとり、子どもについて理解し合う。
- エ 障がいのある乳幼児の姿をありのままにとらえ、一人ひとりの個性、発達程度を理解し個々にあったかかわりを研究・実践する。(個別クラスの一員としての側面と個別支援の側面で押さえる。)
- オ 園生活を共にすることで、相手に思いやりを持って関わったり、自分のやれることについて考えさせる育成の場としたりする。
- カ 地域医療機関との連携を図り、個々の理解、かかわり方について指導、助言を受ける。

(10) 人権教育に関する指導の計画

男女共同参画社会を理解していくように、園生活のなかで知らせていく。「〇〇ちゃんらしさを」大切に、一人ひとりの意志による選択肢を尊重していくことに保育者が日々の保育の中で示していくことが、『人』として互いを大切にする思いを育てることにつながっていくと考えられる。

このためには保育者がどの子どもにも『思い』があることを子ども同士が気づける指導を心がける。

- ア 保育者が自分だけの思い込みできめてしまうのではなく、選択肢があり決定は子ども自身に委ねるようにする。
- イ トラブルの場面では特に「一人ひとりの思いを大切にするという保育者の思い」を示していく。

(11) その他の指導計画

ア 虐待の早期発見に向けた取り組み

乳幼児虐待は単独の期間だけでは対応が困難な問題であり地域住民や関係機関など地域全体で防止に取り組む必要がある。

乳幼児虐待を早期に発見しやすい立場にある保育園として関係機関に働きかけ、地域における乳幼児虐待の防止に向けて積極的に取り組んでいくようにする。

<こども園の役割>

○早期の発見・通告(相談)

- ・普段から虐待の兆候をいち早くキャッチできるよう保護者や子どもの様子に注意をはらう。
- ・虐待を発見したら、すみやかに専門機関に通告すること。
- ・虐待かどうか確信がもてない場合でも、保育園だけで抱え込まず専門機関あるいは師の保育課に相談する。

○地域子育て支援

- ・入所園児や地域の家庭の子育て支援を通じて親の育児不安を解消するには、虐待を未然に防ぐことにもつながる。親が子育てで本当に苦しんでいる時に支援の手が差しのべられていれば虐待にならずに済むことが多いのではないと思われる。そのため、親に対し、子育てを「お手伝いします」「見守っています」というメッセージを伝える工夫をする。

○地域との連携

- ・乳幼児虐待に単独の機関で対応することは困難である。関連する機関と連絡をとってそれぞれの機能を活用していくことが求められている。また、関係機関がネットワークを作り虐待の発見・守りを行っていくことが求められている。実際に子育て家庭と普段からかかわりを持っている人は、支援を行っていくうえで、大きな役割を果たすことがある。公的な機関との連携だけでなく、地域の様々な関係者との連携をとる視点を大切にするようにしていく。

イ 絵本に親しむ活動

○絵本の貸し出し

- ・好きな絵本を選び、家で親子のふれあいの中で絵本を見る楽しさを味わう。

○月刊絵本の購入

- ・希望者は購入して、家庭での親子のふれあいに役立ててもらおう。

交通安全計画

児童の安全については、登降園時の安全確保に努め、指導についてはできるだけ実際の道路にて体験を通して指導にあたる。

月	ねらい	子どもの活動	保育者の活動	行事
4	<ul style="list-style-type: none"> 親子で手をつなぎ、安全な登降園の仕方について知る。 紙芝居などをみて交通の決まりについて知る。 交通安全に興味関心を持つ。 道路の正しい歩き方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 登降園は保護者と手をつないで歩く。 紙芝居などをみて交通の決まりについて知る。 歩道のあるところは歩道を、ほかの道では右側で白線の内側を歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の園だよりで交通安全指導日や指導内容を載せて交通安全の啓蒙をする。 保護者の車送迎の場合は、乗り降りや駐車車に十分安全確認をするよう働きかけたり、チャイルドシートの使用を啓蒙する。 通園時の様子や、危険箇所を知り把握する。 送迎車は指定駐車場と駐車するように保護者へ指導啓蒙する。 歩道のない道路で車間がきたら、荷などで付添いの保育者や子どもに注意を促し、速やかに交差点場所へ誘導し待機する。 歩歩や遊良など実際の道路にて歩道の歩き方、交通ルールなどを保育者が見本となったり、繰り返し声かけをして指導していく。 歩道の端を広く歩かないように指差し、歩道狭いのプロットに上がらないように指導する。 横断歩道などでは、保育者が横断線をもって横断を誘導し、付添いの保育者と連携して安全に配慮する。 横断歩道では必ず立ち止まり、右手をまっすぐ上げて左右の確認を子どもと一緒に有り検断する。 散歩や遊良など実際の道路にて歩道の歩き方、交通ルールなどを保育者が見本となったり、繰り返し声かけをして指導していく。 歩道の端を広く歩かないように指差し、歩道狭いのプロットに上がらないように指導する。 歩の正しい使い方（人に向けない、振り回さないなど）や、歩き方（前が見えない）などを保育者の話しや、絵本や紙芝居などで知らせる。 雨上がりの散歩や乳母車の運搬など必ず手すりや傘などで注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 春の交通安全市民運動（6～15日）
5	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の指示に従い、正しく歩道を歩く。 正しい横断歩道の歩き方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と手をつなぎ、歩道の右側を歩く。 横断歩道では一旦止まって左右の安全確認をしてから、手を上げて横断する。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や遊良など実際の道路にて歩道の歩き方、交通ルールなどを保育者が見本となったり、繰り返し声かけをして指導していく。 歩道の端を広く歩かないように指差し、歩道狭いのプロットに上がらないように指導する。 歩の正しい使い方（人に向けない、振り回さないなど）や、歩き方（前が見えない）などを保育者の話しや、絵本や紙芝居などで知らせる。 雨上がりの散歩や乳母車の運搬など必ず手すりや傘などで注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> セーフティスクール（5歳児22日）
6	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の指示に従い、正しく歩道を歩く。 雨具の正しい使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と手をつなぎ、歩道の右側を歩く。 各クラスにて雨の日の歩行指導を受ける。 ① 傘のさしかた、しまい方など ② 雨の日の約束（前方注意・増水したところにはかまよらない） 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や遊良など実際の道路にて歩道の歩き方、交通ルールなどを保育者が見本となったり、繰り返し声かけをして指導していく。 歩道の端を広く歩かないように指差し、歩道狭いのプロットに上がらないように指導する。 歩の正しい使い方（人に向けない、振り回さないなど）や、歩き方（前が見えない）などを保育者の話しや、絵本や紙芝居などで知らせる。 雨上がりの散歩や乳母車の運搬など必ず手すりや傘などで注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の交通安全市民運動（11～20日）
7	<ul style="list-style-type: none"> 道路や危険な場所では遊ばない。 1人で遊んだり、子どもだけで遠くへ出かけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な場所（駐車してある車の近く、工事現場）では遊ばない。 一人で外で遊ばない。 出かける時は必ず大人と一緒に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な場所や遊び方についてクラスで話し合ったり、紙芝居などをみて知らせる。 家で遊ぶときの約束をクラスで話し合ったり、お便りで保護者に知らせる。 ① 道路では遊ばない ② 遊ばないときは必ず家の人に告げてから出かけ、一人では遊ばない ③ 虫とり、川遊びなどに伴うときは必ず大人と一緒にかくる ④ 危険な場所には近づかない（用水路、工事現場、駐車場など） 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の交通安全市民運動（21～30日）
9	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な標識に従って正しく歩行をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の標識に興味関心を持ち、標識の指示を知ったり、守る。 （とまれ、横断歩道、駐車場など） 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩にでかけ、どんな場所にもどんな標識があるか一緒にみて、意味を知らせ、正しい歩行の仕方を指導する。 歩行者優先、二輪車専用、進路、など道路標識とあわせて交通マナーの大切さを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の交通安全市民運動（21～30日）
10	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールやマナーを知り、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩や遊良など実際の道路にて歩道の歩き方、交通ルールを知り、守って歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外に出る前にクラスなどで交通ルール（手つなぎ歩行、右側通行、横断歩道のわたり方など）、や交通マナー（歩道も広がって歩かない、公共の場での歩きのルール、公共の場での歩きのルール）について話をする。 実際の場できまりを守っているか確かめながら指導啓蒙する。 交通量の多い道などもあるので安全に十分配慮し、保育者が見本となって指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 徒歩遠足（23日）
11	<ul style="list-style-type: none"> 信号機のある横断歩道や交通量の多い歩道の歩き方をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 信号のある横断歩道では、保育者と一緒に信号や左右の確認をして速やかに渡る。 いろいろな道でも交通ルールや保育士の指示を守って歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 信号機や左右の確認を一人一人が気をつけてできているか把握し、繰り返し指導する。 信号が青でも左折や右折してくる車があることを知らせ、立つ位置や手の上げ方、振り方など指導する。 トラップの影やバイクなどいろいろな車の危険性を知らせ、安全に配慮して指導啓蒙する。 狭い歩道や交通量の多い道などいろいろな道でも交通ルールを守って安全に歩行できるように指導啓蒙する。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな交通ルール、交通マナーに興味関心を持ってきまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の道でルールや危険性に気づき、交通安全に興味関心をもって決まりを守って歩行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 車が急に止まれない、横断歩道でも右折や左折してくる車があることを知らせ、実際の道で起こりうる危険性について知らせ、ひとりひとり気がつくように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年末の交通安全市民運動（1～10日）
1	<ul style="list-style-type: none"> 寒い日の正しい歩行の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 寒い日でも交通安全に興味関心を持って歩くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ポケットに手を入れて歩かない、背筋を伸ばして前をみて歩くなど歩行の仕方を見直し、見本となつて知らせる。 氷のはった道や雪の日の道の危険性を知らせ、走ったり、ぶさけたりしないよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全要諦（26～27日）
2	<ul style="list-style-type: none"> 交通のきまりを守って安全に気をつけて歩行できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が交通ルールをまもって、安全に気をつけて歩行することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分から交通ルールやマナーについて気づき、実践できるように安全に配慮しながら促していく。 （道の歩き方、横断の仕方、信号のある横断歩道の歩き方など） 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に興味関心を持ち、きまりを守って正しく歩行ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間身につけてきたことを話し合い、交通安全に興味関心をもって積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊園、遊学に向けて、交通安全の大切さに自尊を持ってようように働きかける。（手をつなぎ方、道の歩き方、横断歩道の歩き方、公共の場での歩きのルールなど） 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ遠足（4日）

避難及び消火訓練年間計画

月	ねらい	想定	子どもの活動	職員の留意点
4	火災の合図と避難の仕方を知る 「お・は・し・も」の約束について知る お・押さない は・走らない し・しゃべらない も・もどらない	火災 幼児棟給食室より出火 室内一斉保育中 第一避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 火災についての話を聞き、合図や避難の仕方を知る 園児は合図を聞き指示に従い第一避難場所に避難し整列する 年中少乳児は合図を聞き避難経路を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災に関する話をし、避難訓練の必要性を理解しておく 避難の合図や約束をわかりやすく知らせておく 初めての年中少乳児などは恐怖心を持たせないように留意する。 消火係は火元に消火器を持っていき消火活動をし、園長に状況を報告する 避難経路の共通理解を図り、防災シャッターの場所を確認しておく
5	地震の合図と避難の仕方を知る 地震の恐ろしさを知り、防災頭巾をかぶって避難の仕方を知る	地震 室内一斉保育中 第一避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 地震についての話を聞き、合図を知る 地震の時の避難の仕方を知り、保育者の指示に従って安全な場所（机の下や落下物のない場所など）に避難し静かに指示を待つ 本部の指示後、保育者と一緒に防災頭巾をかぶって第一避難場所まで避難し、整列して待つ 	<ul style="list-style-type: none"> 地震に関する話をし、合図や指示をしっかり聞くように話し、常に机や備品などは配置を安全にし、地震時に避難する安全な場所の共通確認と子どもの防災頭巾のかぶり方を知らせておく 本部の合図や指示に従って落ち着いて誘導し、防災頭巾をかぶせて避難する 地震と火災の違いを知らせ、すぐに飛び出さず指示を聞くように話していく 合図があったら電気等のスイッチを切り、避難経路の戸を開放する。
6	園外保育中の避難の仕方を知り、保育者の指示に従って避難する。 花火の正しい扱い方、遊び方を知る	地震 園外保育中 園外保育先の避難場所 花火を実際にする	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育中にも地震が起きる事を知り、保育者の指示に従って、安全な場所に避難する。 安全が確認された後、保育者と一緒に帰園する。 年長児は保育者と一緒に花火を実際にして、花火の正しい扱い方や遊び方を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育先で安全に避難できる場所を確認しておく。 保育者は落ち着いて行動し、指示や報告を正確にうけ、安全な場所に誘導し、人員報告する。 園までの道のりで、地震時に落下物が出そうな所がないか確認し把握しておく。 花火をする為に安全な場所や準備物を設定し、安全な遊び方をわかりやすく話しながら実施指導する
7	火災の合図を聞き、保育者の指示に従ってすばやく避難する 不審者が来た時の合図と避難の仕方を知る	火災 幼児棟給食室から出火 室内保育中 第一避難場所から第二避難場所へ 不審者 室内保育中	<ul style="list-style-type: none"> 合図を聞いたら活動を中止し、保育者の話を聞き、指示に従って第一避難場所に避難する 第二避難場所の経路を知り、指示に従って静かに避難する 合図を聞いたら保育者の指示に従って保育者の周りに集まる 一箇所に集まり、本部や保育者の話を落ち着いて聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 合図があったらすぐに活動を中止させ、本部の指示に従い第一避難場所へ避難する 本部の連絡を正確に受け、第二避難場所へ安全、避難させ人員確認、報告を再度する 合図があったらすぐに子どもに指示し、部屋の一箇所に集めて静かにさせる 人員確認をするとともに施錠可能な扉はすべて施錠する 落ち着いた態度を心がけ、本部の指示を待つ
8	昼寝中の避難の仕方を知り、合図を聞いて保育者の指示に従って避難する 延長保育時の避難の仕方を知る	地震 昼寝中 火災 給食室より出火 長時間保育中 第一避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の指示を聞き、素早く起きて自分の布団をかぶる いろいろな身の守り方を知る 合図があったら近くの保育者の指示に従い、避難し点呼をうける 	<ul style="list-style-type: none"> 合図があったら素早く空調の電源を切り、出入り口を開放し子どもを起して安全な場所に誘導、布団をかぶせる 危険な落下物（電気、棚、扇風機）がないか安全な場所を確保する 延長保育担当保育者は合図があったら遊びを止めさせ、第一避難場所に避難させ人員報告する 他の保育者もすぐに合流し、室内、トイレなどの居残り児の確認や誘導、避難に加わる

月	ねらい	想定	子どもの活動	職員の留意点
9	給食中でもあわてず保育者の指示に従って避難する 判定会召集または警戒宣言発令時の避難の仕方を知る 園児の誘導、保護者への引渡し方を理解し落ち着いて行動する	火災 幼児棟給食室より 出火 給食中 第一避難場所 判定会・警戒宣言発令	・給食中でも合図を聞いたなら食事を止めて、保育者の指示に従って避難する ・保育者の話や指示に従って、敏速に降園準備を防災頭巾をかぶってホールに集まり、迎えをまつ ・迎えに来てくれた保護者と一緒に頭巾をかぶって降園する	・合図があったら給食を中止させ、箸や食器などを置かせて指示に従い安全に誘導し、人員報告をする ・配膳台、バケツなどは非常時に備え安全で避難の妨げにならない場所におく ・冷静に正確に放送指示を受け、子どもに落ち着いて状況説明をする ・降園準備をさせ、頭巾をかぶせてホールに誘導し人員報告をする ・園児引渡しカードで保育者の確認をしながら引渡し、居残り児の把握と確認をする
10	登園時でもあわてずに保育者の指示に従って避難する	火災 幼児棟職員室より 出火 登園時	・合図を聞いたなら放送聞き、近くの保育者の指示に従って避難する ・登園途中の子は保護者と一緒に避難する	・合図があったら持ち物はその場に置かせ、冷静に誘導する ・クラス別に整列させて、出席人数と人員を確認し報告する ・受入れしていない子は親子で指示に従って避難してもらう ・出火場所によっては避難方法や避難経路が変わることを知らせる
11	火災の合図を聞いたなら素早く避難する 消防署の指導を受ける 火災の恐ろしさと緊急車両の役割を知る 救助袋の使い方を知る	地震から火災 幼児棟給食室より 出火 自由遊び中 第一避難場所	・どこにいても合図を聞いたならすぐに遊びを止めて近くの保育者指示に従って避難する（室内は防災頭巾） ・消防署員から火災の避難についての話を聞く ・消防自動車、救急車を見たり、放水の様子を見る	・合図や指示を正確に聞いて、素早く行動するよう指示する ・暖房の電源、元栓を閉め、近くにいる子への指示を的確に行い誘導する ・消防署員の避難の仕方や誘導についての指導を受ける ・緊急車両の仕事について知らせておく ・救助袋の正しい設置方法を確認し、迅速に準備し、不安にならないように保育者が見本となって安全に気をつけて実施指導する
12	どこにいても合図を聞いたなら素早く避難する	火災 幼児棟給食室 時間の予告無し 第一避難場所から 第二避難場所へ	・どこにいても合図を聞いたならすぐに遊びを止めて、あわてず近くの保育者の指示に従って避難する ・トイレにいる時は直ちに出てそばにいる保育者の指示に従う ・指示に従って速やかに第二避難場所まで避難する	・合図があったら近くにいる子どもの遊びを中止させ、暖房の電源を、元栓を閉め、本部の指示を聞いて安全に素早く誘導する ・火元に近くに遊具の設定や燃えやすい物がないか確認しておく ・第一避難場所でクラスの点呼、報告を行い、本部の指示に従い第二避難場所へ誘導する
1	合図を聞いたなら保育者の指示に従って避難する	火災 幼児棟保育室より 出火 自由遊び中 第一避難場所	・火元のクラスは保育者の指示で素早く火元から離れる ・合図を聞いたならすぐに遊びを止め、近くに保育者の指示に従って素早く避難する	・火元の担任は子どもたちに火元から離れるように安全な場所に誘導し周囲に大声で知らせると共に本部に連絡する ・消火係は初期消火にあたり素早く状況を把握し、本部に報告する ・合図、指示を正確に聞いて、避難経路を確保し、安全カツ迅速に避難させる
2	予告無しの訓練でも合図を正確に聞いて、保育者の指示に従って避難する	地震から火災 幼児棟給食室より 出火 時間の予告無し 第一避難場所	・合図を聞いたならすぐに活動を中止し、近くの保育者の指示に従って第一避難場所に避難する（室内は防災頭巾をかぶる） ・戸外にいる子は保育者とともに園庭の中央に集まり頭を覆う。室内は机の下、または落下物のない安全な場所に避難し、指示を待つ ・本部の指示を聞いて、保育者の誘導で第一避難場所へ避難する	・合図があったら素早く子どもの安全を確保し、暖房をきり、避難経路口を確保する ・突然の訓練に戸惑う子は手を引いたり、臨機応変に対応する
3	どこにいても、合図を聞いたなら近くにいる保育者の指示に従って安全に避難する	予告なし	・合図を聞いたならすぐに遊びを止め、近くに保育者に指示に従って避難する ・突然の訓練にも慌てず、避難する	・合図があったらすぐに子どもたちの遊びを止めさせ、安全を確保する ・本部からの指示に従って子どもに的確に指示、誘導をし、点呼をする ・トイレや部屋に残留児がいないか大声で確認する ・突然の地震、火災でも動揺せず行動できるように避難の仕方を共通理解しておく